

超宗派の海外留学僧派遣

仏教の現代的使命

東 隆 真

神奈川県横浜市の善光寺（曹洞宗）住職・黒田武志（大圓）師は、昭和五十九年一月十五日、「宗教法人善光寺海外留学僧派遣育英会」を設立した。

国際的視野に立ち、広く世界に活眼を開く仏教僧の育成を目的とするのである。

このたび、すでに本紙（三月八日付）が報道されており、第一回の派遣留学僧として、梅田尚平師（浄土宗）、田中智誠師（黄檗宗）の二師が決定した。まことに慶賀の至りである。健康に留意されて、思う存分ご精進くださるよう期待し、祈念したい。

黒田師は、十五年まえ、横浜市営日野公園墓地のそばに善光寺を開創した。

ゼロから出発して、いまや千数百軒の檀信徒を擁する寺運の隆盛を見るに至った。

およそ二十余年まえ、駒沢大学仏教学部、同大学院を修了後、曹洞宗大本山永平寺、大本山総持寺僧堂に掛錫し、やがて日本全国一周行脚、さらにインド仏蹟を巡拝し、タイ国の僧院に身を投じ、また、アメリカで白人の参禅指導にあたった。

こうした国内、海外での修行生活の経験をもとに、仏教者としての現代的使命を痛感して、次代をになう国際的仏教青年僧の育成を発願したのである。

すなわち、海外に留学僧を派遣して、人材の育成をはかり、仏教を振興し、世界の平和と、人類の進運に



田中、梅田両師の得度式

寄与したいという壮大な誓願である。

かねてよりの宿題のひとつが、善光寺開創十五周年記念事業として、この育英会の設立となって具現した。

留学僧の派遣先はタイ・バンコクのワット・パクナム、アメリカ、カリフォルニア州のロサンゼルス禅センター、イギリス、ロンドンの同支部である。

第一回の留学僧、梅田、田中の両師は、タイ国のワット・パクナムに、この四月中旬から一年間、留学して、上座部仏教の修行生活を实地に体験する。ここは、かつて黒田師が、石附周行師（日本パクナム会会長）とともに修行したゆかりの地である。

来年に予定される第二回の留学僧は、アメリカのロサンゼルス・禅センターに派遣される。

ロサンゼルス・禅センターは、主管前角博雄老師が、三十年まえに開教師として渡米し、十八年まえに開創した。老師は、黒田師の肉兄である。

同センターは、アメリカ人の出家僧と在家信者とからなる共同体社会（サンガ）である。全米に十二の支

部があり、信者二万人をもち、イギリス、ロンドンにも支部がある。

また、付属研究機関「クロダ研究所」は、厳格な坐禅実習とともに、日米の学者たちによる「道元学会」をカリフォルニア大学で開催している。

さて、「善光寺海外留学僧派遣育英会」は、現代の日本仏教界で、どのように評価し、位置づけたらよいだろうか。

とりあえず、私は、次の三点をあげておきたい。

第一点は、国際化を増す現代日本仏教の典型を、ここに見るのである。

明治以降、日本仏教僧の主としてアメリカ、ハワイの開教活動は、各宗でとりくんできた。いまも、開教の苦闘は、孜孜としてつづけられている。また、チベットの、ビルマ、タイでの仏教研修も行なわれている。逆に、来日して仏教を学ぼうとする外国人も、この数十年來、増加の一途をたどっている。禅僧とキリスト教神父の交流も、このところひんばんである。最近は、



フランス人禅僧の日本布教まで見られる。数十年前、はたして誰が、これを予想しえたであろうか。

黒田師は、こうした過去の先人たちの苦勞、現代の国際情勢に呼応して、海外における実地の修行生活を通して、世界的視野に立つ人材を育成しようというの

である。

海外の開教に一生を捧げるにせよ、日本で教化活動に挺身するにせよ、これからは、世界的視野と、国際的感覚を身につけた仏教僧の登場が、もつとも望まれるわけで、こうした人材の育成ほど、緊急かつ重大な企てはあるまいと信ずる。

第二点は、この育英会は、いわゆる大乘仏教といわれる日本の善光寺を本拠地として、タイの上座部仏教、そして白人社会のアメリカ、イギリスの禅センターを結ぶ、世界的空間の規模をもつ仏教研修のシステムである。

それぞれ異なった地域で、独自の伝統と文化をつくりあげてきた、また、つくりあげつつある仏教の内実を学習するには、留学僧個人にとつても、仏教の将来にとつても、まことに意義深い機関である。

それだけではない。

人類は、宇宙時代に入り、世界はあたかも一国の観を呈するほどに、時間的、空間的にいちじるしく短縮

されてきている。

しかし半面、人類は、かつてない不安と絶望におかれている。この現代社会の悲劇をまえに、仏教の絶対平和、和合の原理を具体化してゆく、ひとつのかけ橋をつくりたいという悲願もここにはある。

第三点は、この育英会は、黒田師個人、善光寺一カ寺の企てである。全仏教団、一宗全体の大組織の事業ではない。しかも留学僧は宗祖を通して釈尊にかえるという着眼点に立ち、一定の資格と志さえあれば、所属の宗派を問わないのである。

このような破格の企てを、寡聞にして、私は、ほかには知らない。この聖業を多くの人々が知っていたらいい。同時に黒田氏の壮挙を高く評価したい。

第一回の留学僧の派遣が成された今日、さらにすすんで応募し、また、志ある若人を推挙していただくよう、関係者の一人として、天下に切望してやまない。

(中外日報より転載)